

文責：2011/06/29 西村

「リユニオン2011」2011年（平成23年）6月18日（土）クーポール会館

□記念講演 磐田6団 鈴木宗直（先生）

- ・ ボランティアをやるために重要なこと
 - 1：健康、2：家庭、3：職業
- ・ 与えられたポジションにベストを尽くせ
 - 上に立つモノは 係と係の「のりしろ」に気をつけろ
- ・ 「長」に付いた時に次ぎに誰を任せるかを考え、実行しなければならない
- ・ 社会構造の変化に伴い、子どもは変わっている
 - ： 巣ごもり、孤立化、無気力化、組織に入りたがらない
 - が 今や 「親」に なっている
 - （ボーイスカウト活動の）PRをすべき！
 - ・ 親とリーダーが両輪である（親を仲間にするのが重要）

「平成 23 年度第 1 回（静岡県連）トレーニングチーム研究集会」

2011 年（平成 23 年）6 月 19 日（日）静岡青少年会館

□ 自然体験活動指導者育成研修会

独立行政法人 国立青少年教育振興機構 教育事業部 企画・推進 進藤哲也課長

・「青少年教育振興機構」とは

青少年の自立を体験活動を通じて促す！

・少年自然の家＝「少年を野に放て」・・・野の中でかけずり回る子ども

設置条件：ネオンが見えない所・・・自然体験！

・青年の家 ＝：街の明かりの見える所・社会体験！

・学習指導要領改訂（小学校 平成 23 年度～ 中学校 平成 24 年度～）

・改訂 ①生きる力の重視＝「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」

②学力の育成

視点：体験と表現＝自ら 自分が学べたか 自分で表現する

・自然体験活動指導者とは

・学校が長期自然体験活動を実施する上で生じる様々な課題に対して学校へのアドバイスや指導助言を行い、また子どもに対して体験活動に関する指導を安全に行う資質と能力を持つ

・ボランティアという言葉がある限り、日本はまだまだ！

困っている人を無償で助けるのはあたりまえ（ex. 電車の優先席がある？）

と言う方向に行きたい

・ボランティア カラー心理テスト

◆ボランティアを色にたとえると？（対象：小学生生徒 9

赤：大事だと思っている

青：やって良かったと思う

緑：気持ちいい

透明・虹色：色々あって色がつけられない

黒：わからない

・色をつけることが出来る＝やらされるのではなく、やっていることの目標がはっきりしている

・本は行間を読む訓練が出来るが、（*テレビ）ゲームは与えられるだけ

・現代は 「与えられることに満ちあふれている」 →→不平不満

・予定通りではなく、予定通り行かない：皆と違う！を大事にしたい

←←年齢に則した体験を与える必要

西村注：「大人が子どもたちに考え方を強いるのは間違っている。

しかし、経験を強いるのは義務である。」：クルトハーン

「平成 23 年度第 1 回（静岡県連）トレーニングチーム研究集会」
2011 年（平成 23 年）6 月 19 日（日）静岡青少年会館

□ 新訓練体系について

村田 禎章 日本連盟ディレクター、日本連盟指導者養成委員長

※西村注：新指導者訓練体系は第 4 案であり 詳細は決定後 地区内連絡する

・・・以下は 行間、閑話、コメント

- ・求められる指導者像（全ての成人指導者）
 - 4) 心身ともにスカウト活動に支障のない健康状態であること
(質問への回答：障がいのある方は、障がいのある状態で健康であること。)

- ・指導者にとって、スカウトを指導するに当たり必要な資質
 - 4) スカウト全員の前進を目指す情熱を有している
 - 前進：BVS～VS すべての指導者の目標！
 - RS（※指導者）は地域貢献・国際貢献等々 職業を通じた社会貢献を
(※スカウトが) 出来るようになることが目標
 - ←情熱はどこで身につけるか？
 - ・近く（団内、地区内）で認められることが モチベーション維持になるはず

- ◆団委員長として
 - ・BVS 隊長を兼務して 入団の際、BVS→CS→BS→VS→RS をしっかり説明する
(ローバーまで行くのは当たり前！ と 団委員長が説明すると理解度が高く、団委員長として CS、BS の保護者とも 気楽に話が出来る)
 - ・前進するのは 当たり前なので、前進の意思確認はしない
←「上進用制服購入のおしらせ」を送るだけ
 - ・団関係費は 毎月 自動 引き落とし。
自動引き落としがいやという保護者は、年一回全額振り込み(途中退団でも返却無し)